

平成23年(2011年)2月24日 木曜日

児童虐待

5年連続最多 354件

近隣通報からの 摘発件数倍増

平成22年に全国で摘発された18歳未満への児童虐待は前年より19件多い354件で、18年以降5年連続で過去最多を更新したことが24日、分かった。近隣住民

からの通報が摘発のきっかけになったケースが倍増しており、大阪の2児放置死など痛ましい事件を受け、虐待の通報意識の高まりが背景になったとみられる。

まとめでは、摘発人数は387人(31人増)、被害児童数は362人(15人増)でいずれも過去最多を更新した。被害内容は身体的虐待が277人(33人増)、ネグレクト(育児怠慢・拒否)が18人(6人増)と増加したが、性的虐待は67人で24人減少した。年齢別の最多は0歳(42人)、2番目は14歳(32人)だった。死に至った児童は33人で

5人増えたものの、過去最多だった13年(61人)からは半分近くで推移。容疑別では殺人(15人)と傷害致死(14人)が大半を占めた。

一方、加害者の内訳は男が約7割、女が約3割。実父が109人で9人減少したのに対し、実母は10人増の108人だった。養・継父と母親の内縁の夫による虐待は30人増の150人で全体の4割近くになるなど、非血縁者の男による虐待の増加が目立っている。

また、摘発のきっかけになった通報は、家族・知人が99件でトップ。児童相談所79件、近隣住民40件、被害児童38件、病院36件と続

いた。近隣住民以外はほぼ横ばいだった。